

第21回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年8月18日（木）午前9時00分～10時00分
2. 開催場所：Zoom を用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、山口一郎、高橋賢臣、福土政広、中村美和、榎本 敦、橋本 周、秋吉
優史、笠井 篤、阪間 稔、小嶋光明、川島恒憲、小田啓二、五十嵐 悠

4. 紹介資料

資料1 今後の活動方針について

5. 議事

(1) 今後の活動方針について

飯本委員長より、今後のWG活動方針案について説明がなされた。

- 残り約半年の活動期間において、以下の3つの分科会を設置する。
 - ①エックス線利用上の規制と現場管理
 - ②エックス線被ばく線量の測定と評価
 - ③事故に関する情報の発信と教訓の水平展開
- 分科会での検討成果については、最終報告書として、「保健物理」誌へ、解説または資料としてシリーズ投稿する。
- 2023年6月の学会企画において特別セッションを組んで、WGとしての活動成果を報告する。また、ICRP2023等の国際学会での発表も視野に入れる。
- 分科会活動の進捗については全体WGで確認する。
- 分科会のメンバーについては、委員の意見を踏まえつつ幹事団で調整する。

委員からの以下の質問や意見があり、今後の方針を整理した。

- 事故発生企業へのアプローチについて質問があり、分科会活動か全体WG会合で扱うことを想定しているとの説明がなされた。
- 極端な不均等被曝での線量評価について、クルックス管に関する専門研究会でも議論は収束しなかった経緯から、解決に向けての論点と課題を示す方向で報告書をまとめたいと説明があった。
- 各分科会間の活動の進捗と成果の共有が必要との意見があり、幹事団内で各分科会の進捗について随時情報共有すると共に、分科会間でオブザーバー参加も可能にするとの回答があった。
- 分科会で扱った資料や議論の内容はそのまま公開することはないが、WGメンバー内では共有する方針が確認された。
- 活動期間の制約への懸念から検討内容の絞り込みが必要との意見があったが、事務局から各分科会で想定している検討項目の具体的な説明を受けて、原案通りの方針で進めることとなった。
- 本WG終了後の活動継続、展開の可能性について意見があり、報告書に課題や提言として示すことを想定しているとの回答がなされた。

(2) その他

- 第20回WGの議事要旨を確認し、原案のまま承認された。
- 第22回以降の開催(分科会含む)は別途事務局内で日程調整することとした。

以上